

令和6年度第1回 羽曳野市こども夢プラン推進委員会 会議録

日時：令和6年5月10日（金） 午後2時30分～

場所：羽曳野市役所 別館3階会議室

1. 開会

2. 羽曳野市子どもの生活に関する実態調査の報告について

○事務局より説明

○質疑

（委員）

154ページの世帯所得の中央値について257万円と説明がありました。可処分所得ということだが、額面で言うと大体どれくらいになりますでしょうか。

⇒（事務局）

手取りと額面の差は所得の金額によっても異なりますが、概ね手取りより2割多いくらいです。

（委員）

300万円前後ということになるのでしょうか。日本の平均収入が460万くらいとよく聞きますが、460万と300万との差というのはどのように理解したらよいのでしょうか。

⇒（事務局）

調査の仕方も大きく異なるので一概には言えませんが、この中央値は他の自治体や国での同様の調査と比べると低く出ている印象があります。世帯単位の収入と、等価可処分所得という世帯の人数の平方根で割った金額とは異なりますので、世帯単位の統計との出し方の違いも影響していると思われます。

3. 羽曳野市子ども・子育て支援に関するアンケート調査の報告について

○事務局より説明

○質疑

（委員）

自由記入欄の主な意見の中で、保育枠の拡大、空きがないということにつきまして、枠の拡大は市長を含め考えていただいていると思いますが、人口も減ってきており子どもも減っている中で、開始時間を早めるというのもどうなのでしょう。子どもは保護者と一緒にいたいものです。保育園に行けば子どもたちは友達と会うので、保育時間はスムーズに進みますが、その一方で毎日寂しそうな顔をしています。大人や会社の都合でどんどん開始時間を早めるのは、保護者と過ごす時間の減少につながります。心の情緒ややさしさという面は保護者が育てていただいておりますので、アンケートの主な意見の内容の一行目がこの意見で、多くの方がこれを望んでいるという印象になると良くないと思います。誤ったメッセージとなってしまうか危惧しております。

（委員）

今の意見に対して親の意見になりますが、両親が働くデメリットの設問で「自分が病気やけがをしたときに子どもをみてもらえない」という回答と同じくらいの割合で「子どもと接する時間が少なくなる」という回答がありました。働くことで子どもと接する時間が少なくなるのはデメリットであるので、出来ればどちらかは働かずに生活できれば良いですが、ほぼそれはできません。どちらかが働く時間を減らして子どもに向き合う時間を増やせるならそうありたいと思いますが、働く以上会社から望まれて早く出勤してほしいとか、仕事に時間を割いてほしいと言われると、社会人としてはそのニーズも受け取る必要があります、こういう意見が出てくるのだろーと思えます。単純に枠を増やせばいいという話だけではなく、仕事と保育の両輪で考えなければ家庭と子どもの育ちは守られないと感じております。ただ預かってほしいとのみ思っているわけではないということです。

(委員)

自由意見に子育て支援について家庭と仕事を両立するためのサポートがほしいというものがあります。サポートというのは具体的にはどういうものを選ばれるのでしょうか。働く側、男性女性一緒に考えなければならないと思いますが、具体的に何を言えば良いかわからないところがあり、教えていただければと思います。

(委員)

家庭と仕事の両立のサポートの具体的な内容ということでしょうか。

(委員)

サポートがほしいという時にどういうものを求めているのか、アンケートの中などから具体的に教えていただければと思います。

⇒(事務局)

ここで書かれていることはあくまで自由意見なので、何を想定されているかはわからないところがあります。ただ、例えば報告書 139 ページで仕事と家庭の両立の課題についての質問があり、「病気やけがの時にみてもらえる人がいない」、「子どもと接する時間が少ない」、「残業や出張が入る」といった回答があり、こうした課題の解決につながるサポートというのは考えられます。

(委員)

子どもが体調不良になった時に、病後児保育というサービスがあることは知っていますが、自分の子どもが病気になった時に仕事を休めないというのは、どれだけ大事ななことかと思うと、出来るだけどちらかが休めるようにしたいというのが親の考えです。両親とも働いていて、帰ってきて家事を回し始めるのは6時半くらいで、9時半に寝かせるには、触れ合う時間は3時間くらい、家事をしながらになります。子どもと十分に関わっているとは言いきれないので、そこまで働かなくてもご飯を食べられて、経験にもお金を使える社会になればと思います。

(委員)

働く立場として声かけをしたことがありますが、やはり働くとなると男性は仕事中心になります。女性も仕事も忙しいとは思いますが、男性に比べて女性の方が子育てを主として担いやすいのではないかと思います。みんなが働きたいのはよくわかります。

(委員)

4人子どもがおりますが、長男が学童に行き始めたころに3人目が生まれ、学童が5時に終わ

って迎えに行って、そこから学童の宿題を見て、下の子のミルクをあげて、真ん中の子どもは赤ちゃん返りしてご飯を作らないといけない、夫は営業で、接待で帰ってこないということで、2人3人目の壁はあり、それに対してのサポートがほしいという思いはありました。今は扶養の関係で短く働いていますが、当時はフルタイムだったので、ご飯は8時くらいにしか食べられず、下の子も帰ってきて疲れているのに宿題をみなければならなかったり、下の子にミルクをあげないといけなかったりとパニックになっていたことはありました。一人で子どもを見なければならなかったこともあり、そういう声もあるのかなと思います。

(委員)

ボリュームのある調査ですが、特に総合考察など、調査から出た課題を分かりやすく書いていただいております。いくつかの傾向について課題が書かれていますが、この課題についてどのように動いていくかについては、具体的に方策や方針が出たりするのでしょうか。例えば朝食の課題について、食べた方がよいのはわかっているけど、私も朝食の子ども食堂をやっておりますが、普段食べられないという子どもがいます。栄養士によると朝食べないと脳の伝達物質が興奮状態になって、イライラしたりソワソワして授業が受けられなくなるそうです。いまそういう現状、子どもが朝食を食べられていないことに対してどうしていけば良いかということが見えてこないと思っており、市ではどのように考えていくかを聞いてみたいと思います。課題に対しての展望があるのかどうかお聞きしたいです。

⇒(事務局)

本日の議題についてはあくまで調査の結果の報告であり、この調査等についてはこども計画策定に向けての調査ですので、課題については必要に応じて所管課と相談して新たな事業の検討等をさせていただきます。すぐに提案できるものがあるわけではありませんが、今後この推進委員会でも議題に上げて検討していただいたりして、事務局で各課と調整して新たな展開をさせていただきます。

(委員)

朝食の件がどこまで取り上げられるかは定かではありませんが、これから夢プランを作っていく上での材料として、クローズアップしていく可能性はあると思います。次回以降の議論でご意見いただければと思います。

(委員)

中央省庁でも様々な調査を実施していて、結果がホームページでも発表されており、いろいろな活用のされ方をしています。研究者が二次分析して、基本集計を元に多変量解析などを行って精緻な結果を論文としている例があり、どんなパターンの方がいるかや、困りごとの関連等、より多くの変数を一度に分析し、活用する事例もあります。市のデータでそれをするかどうかは別ですが、色々なデータをもとに俯瞰してまとめる形もあります。それとは別に、私たちの日々の生活の中に最も影響がある経路は、3つあると思います。1つは、今日のように意見を市役所の方々が聞いてくださり、すでにあるものをどう改善するかを考える行政ルートです。もう一つは政治ルートで、身近な議員に語っていただく。議員も世の中にいいことをしたいと思っていらっしゃるわけで、それによって自分の仕事を続けたいと思っていらっしゃるの、こういうことをやっていきたいと思いますと身近な議員にお願いし、考えて動いていただくように議員にどんどん言っ

ていくことです。3つめはビジネスです。行政と政治に加えて、ビジネスも大事です。例えば、朝の時間に保育園や学校に子どもの居場所をお願いするのではなく、そこに隙間ビジネスができる可能性があります。学校・園とは違う主体が、例えばボランティアや赤十字や企業体が活動やビジネスを始める可能性がありますので、私たちが調査結果から読み取ったものを発信していく必要があると思います。まずは自分の周りで、次はさらに外へと広げることで新しい形が生まれていくと思います。子ども食堂も素晴らしい取り組みですので続けていただければと思います。

4. 羽曳野市こども・若者の意識と生活に関する調査について

○事務局より説明

○質疑

(委員)

市長が調査結果を参考にするというように書かれていますが、質問内容等は今までも色々な面でも出された問題ばかりだと思います。回答としても、同じような答えになってくるのではと思います。最終学歴を尋ねていますが、これは必要なのでしょうか。また、遊び場所が少ないこと等は以前にも問題として挙げられたことばかりですが、それについて市長がどの程度返事をしていただけなのか、考えていただけるのか聞かせてください。

⇒(事務局)

最終学歴については単体で聞くのではなく、どういう現状にあるのかを学歴別に分析するためにありますので、アンケートとしては必要だと思っております。市長に関しましても、結果は市長にもお伝えしたいと思えますし、この会議においても議論いただきたいと思っております。それによって市民のために有意義な施策を打ち出せればと思っております。職員一同理解していると認識しております。

(委員)

補足になりますが、先ほどの委員の発言は、既に今まで何度となく出てきた議題といえますが、問題が再度出ていますが、では今まで出ていた問題に対する答えはどうお考えだったのか、ご理解いただいているのか、という意図かと思えます。市長に伝えたら終わりというものではないと思えます。今まで何度となく出てきている問題ですが、その改善が羽曳野市の中にどこにも見当たらないということです。一度に変わらなくても、何年も言われていることが改善されていません。わかりやすいのは公園ですが、ボール遊びが禁止になっていたり、奥が見えず危ない公園があるということは私もずいぶん前から話をしてきましたが、改善が見られず、閉園になった幼稚園も草ぼうぼうという状況で、一つずつ何か変わっているということの可視化がないまま、同じ問題が出ているというご意見だと思います。

⇒(事務局)

この夢プランに限らず、各種行政計画を作る上で市民にご協力いただき調査をします。子どものアンケートのみで遊び場が問題になるわけではなく、遊び場所が少ない、公園が少ないという結果は色々な調査で出ております。その中で行政として短期的に取り組めるものにつきましては、ご意見を踏まえて施策や事業に生かしております。ただ、長期的に取り組む課題につきましては、予算の配分もございしますが、そういった課題を認識して取り組んでおります。ただその量が十分

ではなかったり、届いていないととらえる世帯と、私たちには必要ではないととらえる世帯等色々な意見がある中で、バランスを取って有効に貴重な税金を使うのが基本だと思っています。遊び場につきましては地域の懇談会でも同じ意見がございます。最近では子どもが遊べるところで、アンケートでもございましたが、ボール遊びができるボールパークが、高鷲北幼稚園跡に一つ出来ております。今後それを広げていこうと次を考えております。また新しいニーズとして、南阪奈の側道の下にスケートボードができる広場がこの4月にオープンしております。色々なニーズがございますが、出来るところから市民に返していこうと取り組んでおりますので、短期的に広大な公園ができるかと申しますと色々な課題がございますが、将来を見据えながらいただいている意見は反映しているのご理解いただきたければと思います。とはいえ、こういう委員会を通じて、もう少しこういうところをですとか、スピードを上げてほしいといったことは、市として真摯に受け止めておりますので、それは市長が聞いておりますのと同じのご理解いただければと思います。

(委員)

ここでの議論は、議事録にしっかり残りますので、議員も市長も見てくださいと思います。夢プランの報告書や議事録を読んでいただいていると、市長の公約を見ても思ったところであります。ただ、読んで公約でおっしゃられてもそれで実現できているとは限らないところがありまして、ここで話したあるべき話と、議会でのお金の話とがあり、難しいなと思うところです。

ただ、おっしゃって下さった「最終学歴」ですが、私もお指摘を受けて気づきましたが、今の生涯学習の時代にあって、現時点の学歴を「最終」というのは時代遅れではないかと思います。これからも学ぶので。私も短大の非常勤などもしていますが、子育てが終わってから入学される方もいます。教職大学院に現職の先生も来られています。なので、「最終学歴」は変わります。であるなら、あなたの「現状の学歴」をお答えください、がいいかもしれません。その意味では現状の学歴を尋ねるとともに、今後どう学びたいかということがあると、今度は「学校サイドのニーズ」の把握にもつながると思います。そろそろ20歳代前後で学歴が止まるという人生観はやめた方がよいかもしれないと、お話をお聞きして思いました。

5. 子ども・子育てに関する本市の現状（就学前教育・保育の量の見込み）について【資料4】

【事務局より「資料4 子ども・子育てに関する本市の現状（就学前教育・保育の量の見込み）」に基づき説明】

(委員)

利用率が上がっていく一方で、子どもが減っているということがありますが、保育士の確保が大きな課題になっています。大阪市では保育士の囲い込みになっています。勤続7年目までボーナスを出すということもあるようで、学生は就職で大阪市に行くということにもなります。そのような中で、保育士の確保が大事です。一方で子どもが減ってくる。我々も保育士を抱えているので、それを都合よく切ことはできません。子どもが減ると収入が減る、解雇する訳にも行かない。保育士がいて初めて預かれる状況があるので、それをうまく改善できる方法として、国の

メニューとして、子どもが減ると定員を下げるという制度があります。うちは 150 人定員だが、それを 130 人定員にすると 1 人当たりの単価が上がります。そうなることで保育士を雇い続けることが可能になり、いつでも来てくださいという体制が維持できます。子どもがゼロになることはないので、制度を支えていける定員の柔軟な運用を準備していただきたいのが 1 点、もう 1 点は以前公立の保育所、幼稚園をこども園化するという予定があると聞いたが、現状どうなっているかお聞きしたいと思います。

⇒（事務局）

大きく 2 点、利用定員の減少とこども園化の状況ですが、利用定員については定員を減少させることはそれだけ枠が少なくなりますが、羽曳野市では地区を 1 つとしており、ニーズに対する確保量は余裕がない状況です。子どもが減少していますが保育を希望する割合が増えている現状もあって、今年度も待機児童が出るかもしれないという状況になり、保育園のクラス増等によりなんとか待機児童はゼロをキープできた状況で、定員に余裕がない現状となっています。ただ、民間園長会の皆様より、将来的な子どもの減少を見据えて安定的な運用を図るためには利用定員の変更に柔軟に対応してほしいという要望はうかがっており、各市での取組も検討しながら調査を進めているところです。実際に定員を変更するとなると確保量にも影響し、給付額が増えることになるので予算の確保も必要になるということで様々な調整が必要になるため、頻繁に定員変更となると、保育行政にも影響があることから、一定の基準やルールを決めて進める必要があると思い、研究、検討を進めています。こども園化については、現状 2 つの公立こども園、こども未来館たかわし、向野こども園があります。3 つ目のこども園の整備を現在進めており、下開保育園の付近に 3 つ目の園を開設するという事で、令和 8 年 4 月開設に向けて準備を進め、設計の最中です。4 つ目のこども園は、民営化も含めて、これまでは公立だったが、民間活力も入る余地を考えて検討しているところで準備を進めています。今年度、民間に入ってもらえるようなメリットがあるかを研究しながら進めていく段階で、峰塚中学校近くの給食センター跡地で令和 10 年に開園できればというスケジュール感で進めています。また、スケジュールは未定ですが、5 つ目も視野に入れて進めています。

6. 今後のスケジュールについて

（事務局）

6 月には子ども若者の意識と生活に関する調査と団体ヒアリングを実施予定です。また、8 月には第 2 回の会議を予定しているのでよろしくお願いします。

7. その他

（事務局）

この度、長年に渡りこども夢プラン推進委員、及び委員長を務めていただき、本市児童福祉行政に多大なるご貢献をいただいていた委員長が、ご勇退なされることとなりました。委員長よりご挨拶をお願いしたく思います。

(委員長)

こちらの委員には平成 16 年に就任し、約 20 年間ご一緒させていただきました。私としては、未来へのお願いとして、私自身も教えていただき気づかせていただいて仕事をしてきたので、是非皆様のお力をいただき、若い先生を育てていただければと思います。いろいろな場に呼んでいただき、ご一緒することでリアルな実感のもとに仕事ができると思っています。研究者の仕事は遠くを見る仕事です。昔どうだったのかという遠くを見る。世界はどうか、未来はどうか、遠くを見ているので、今日の用事を忘れてたりしますが、遠くを見るという大きなメリットがあります。そこから何が見えているのかが本に書いてあり、その後の知見もお持ちであると思います。ぜひ、次の委員長に未来への展望を語っていただき、その上で現在の課題を考えて、あるべき姿から構想をいただいた夢のあるプランにしていただけるということを願って、私の退任のご挨拶とさせていただきます。

⇒ (事務局)

ご就任中のご指導ご教授に感謝申しあげるとともに、今後の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りします。誠にありがとうございました。

8. 閉会

すべての議事が終了したので、これをもって和 6 年度第 1 回羽曳野市こども夢プラン推進委員会を終了します。本日はありがとうございました。

以上。